

食品添加物の安全性と消費者の不安に関する研究(II)

Study on Safety of Food Additives and Concerns of Consumers II

堀江 正一, 堀井 千枝, 渡邊 萌
Masakazu Horie, Chie Horii, Moe Watanabe

大妻女子大学家政学部食物学科

キーワード：食品添加物, 意識調査, 食品の安全性

Key words : Food additives, Awareness survey, Food safety

1. 研究目的

食品添加物は、「人の健康を損なう恐れのない場合」のみ厚生労働大臣により使用が認められている。しかし、多くの消費者にとって食品添加物は「有害なもの、危険なもの」と認識されている。なぜこれほどまでに科学的な評価と消費者の認識の間に乖離が見られるのであろうか。しかし、食品添加物のリスク認知について男女別、年齢階層別に詳細に調査した報告はほとんど見られない。そこで、科学的な安全性評価と消費者のリスク認知の大きな乖離を埋めるため、男女別、年齢階層別における食品添加物に対するリスク認知状況を調査した。次に、科学的な安全性評価と消費者のリスク認知の大きな溝を埋める手法として、正しい情報の有用性について検討した。本研究は、食品添加物の科学的な安全性評価と多くの消費者が抱えている認識の大きな乖離を埋め、より健全で快適な食生活の営みに寄与することを目的とする。

2. 研究実施内容

2.1 研究方法

1. アンケート調査：インターネット調査

(GMOR 株式会社に委託；20代、30代、40代、50代、60代、70代以上、男女各150名、合計1,800名、(有効回答数1,541名；有効率85.6%)を実施した。

2.2 結果及び考察

食品の安全性について、不安の程度を尋ねたところ、男性に比べ、女性の方が優位に高く、年齢階層別に見ると20代が最も低く、年齢が40～70代と高くなるに従い不安度も高くなる傾向を示した。食品添加物に対する不安度もほぼ同様な傾向を示した。食品の安全性で具体的に何が不安ですかという質問(3つまで選択可)に対

する調査結果の概要を表1に示した。全体では、食中毒(29.4%)、食品添加物(27.1%)、残留農薬(25.4%)、昨年から1年以上国際的に極めて深刻な問題となっている新型コロナウイルス感染症(24.7%)の順であった。男女とも、不安要因として食品添加物が第2位であったが、男性(22.6%)に対して、女性は(31.6%)と10ポイント近く高い値であった。20代では18.7%と低い数値であるが年代が増す毎に不安傾向が高くなり、70代以上では40%を占めるに至っている。過去に実施されたアンケート調査でも、今回実施したアンケート調査においても消費者の多くが食品の安全性に不安を抱いており、その要因として今なお食品添加物を上位に挙げている。

食品の安全性で具体的に「食品添加物に対する安全性についてどう思いますか」と尋ねてみた。全体では、不安である16.4%、やや不安である47.7%、余り不安でない28.8%、不安でない7.1%であった。インターネット調査者の約2/3が食品添加物に対して不安感を抱いていることが分かった。図1に示す様に、50代～70代以上の女性で

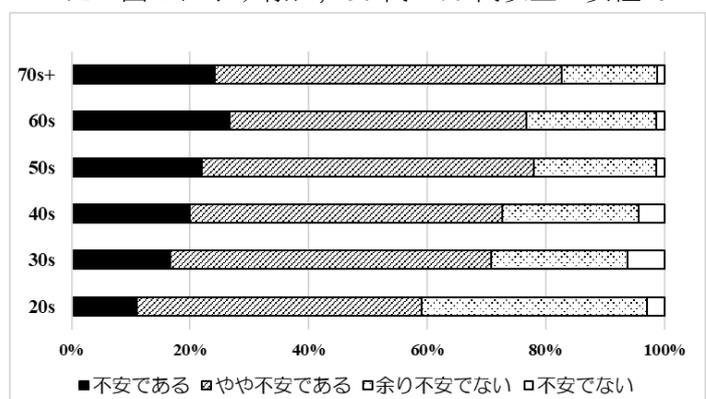


図1. 食品添加物の安全性に対する女性の意識

表1. 食品の安全性で具体的に何が不安ですか？

危害要因	Total	男性(Male)							女性(Female)						
		M-Total	M-20s	M-30s	M-40s	M-50s	M-60s	M-70+	F-Total	F-20s	F-30s	F-40s	F-50s	F-60s	F-70+
食中毒	29.4	29.2	44.7	29.3	34.0	26.7	20.0	20.7	29.6	48.0	38.0	33.3	25.3	20.0	12.7
食品添加物	27.1	22.6	15.3	15.3	18.7	22.0	27.3	36.7	31.6	18.7	27.3	34.7	34.0	34.7	40.0
残留農薬	25.4	21.1	6.7	8.0	16.7	24.0	28.0	43.3	29.7	10.0	18.0	28.0	34.7	40.0	47.3
新型コロナウイルス感染症	24.7	22.8	16.7	20.0	29.3	21.3	27.3	22.0	26.6	25.3	28.0	24.0	29.3	25.3	27.3
特になし	18.7	22.6	28.7	31.3	20.7	18.7	22.0	14.0	14.9	21.3	18.7	13.3	12.7	12.0	11.3
遺伝子組換え食品	18.6	17.9	10.0	10.7	18.7	22.7	20.7	24.7	19.2	6.0	10.7	18.7	25.3	25.3	29.3
輸入食品	14.9	13.6	8.7	8.7	12.0	18.0	16.0	18.0	16.3	10.0	15.3	14.7	26.0	20.0	12.0
家畜への薬剤投与	11.7	10.1	5.3	6.0	6.0	12.7	12.7	18.0	13.3	5.3	8.7	15.3	10.7	18.0	22.0
環境汚染物質(ダイオキシン,PCB等)	11.7	12.3	9.3	10.0	10.7	17.3	11.3	15.3	11.0	6.0	10.0	8.7	8.0	16.7	16.7
消費期限,賞味期限	9.7	9.6	17.3	12.0	8.7	6.0	6.0	7.3	9.9	21.3	7.3	7.3	6.0	10.0	7.3
放射性物質	8.7	8.0	6.7	8.7	15.3	6.0	5.3	6.0	9.3	4.7	12.0	7.3	10.0	9.3	12.7
外食の安全性	7.6	6.7	8.0	7.3	7.3	4.7	6.7	6.0	8.6	8.0	5.3	12.0	8.7	8.7	8.7
食物アレルギー	6.1	5.8	6.7	8.0	10.0	5.3	3.3	1.3	6.3	9.3	14.7	7.3	2.7	2.7	1.3
BSE	2.5	3.1	4.7	4.7	2.7	1.3	2.7	2.7	1.9	1.3	0.7	3.3	2.0	2.7	1.3
家庭食の安全性	1.9	1.8	2.7	2.7	1.3	1.3	1.3	1.3	2.1	1.3	2.7	2.7	2.0	2.0	2.0
いわゆる健康食品	1.1	1.2	0.7	2.0	0.0	1.3	2.0	1.3	1.0	0.7	0.7	0.7	0.7	2.0	1.3
その他	0.4	0.7	0.7	0.7	0.0	1.3	0.0	1.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7

食品の安全性について具体的に何が不安ですか？該当するものを3つまで選んでください。

は、約8割が不安感を抱いていた。過去に実施されたアンケート調査でも、最近実施されたアンケート調査においても、消費者の多くが食品添加物の安全性に不安を抱いている。食品の安全性に関する各種アンケート調査では、牛海綿状脳症(BSE)や福島原発事故による放射性物質汚染問題の様に、食品の安全性に関する事件・事故により報道される記事数は大きく異なり、消費者が抱く具体的な不安項目も事件や事故の影響を強く受ける。しかし、最近食品添加物による問題はほとんど起こっていないのに係わらず消費者の食品添加物に対する不安感、不信任は根強いものがある。

今日の豊かな生活は、特に合成された化学物質なしには語れない。しかし、言い尽くされてきているが、メチル水銀による水俣病、ヒ素によるミルク中毒事件、有害金属カドミウムによるイタイイタイ病、亜硫酸ガス等による四日市喘息、最近ではダイオキシンや内分泌かく乱化学物質の問題等があった。私達は、豊かな生活を得た反面、化学物質によるこれらの事件・事故に遭遇し、大きな被害を受けた人も少なくない。これらの事件・事故による報道などにより「化学物質、特に合成化学物質は有害であり危険である」との情報は、その後「改善されて心配はない」と言われても一度刷り込まれた「有害・危険」のイメージは中々拭い去れないと言える。さらに、今日においても食品の安全性に関する報道(豚コレラ、鳥インフルエンザ、異物混入、偽装表示、食品異臭等)が時々なされている。過去に起こった化学物質や食品添加物に対する事件事故、今日でも時々報道される食品危害情報が消費者の食品添加物に対するリスク認知形成に大きく関わっていると思われる。

食品の安全性に対する事件・事故が頻繁に報道された幼少期を過ごし、且つ食材の購入から調理に携わる機会の多い50代から70代の女性は、化学物質は危険なものとして強く認識するに至ったことが推察される。

3. まとめと今後の課題

インターネット調査(1,800名)においても、食品添加物に対する不安感は、50代から60代の女性が高く、20代の若い世代になる程、低くなる傾向が見られた。食品の安全性に対する事件・事故が頻繁に報道された幼少期を過ごし、且つ食材の購入から調理に携わる機会の多い50代から60代の女性は、食品添加物は危険なものとして強く認識していることが推察される。一度、脳裏に刷り込まれた「食品添加物を有害なもの、危険なものとする」考えは中々拭い去ることができないが、正しい情報を分かり易く、且つ繰り返し提供することにより、リスク認知の変容が可能であると考えられる。

4. この助成による発表論文等

①雑誌論文

②学会発表

- [1] 堀江正一 他「食品添加物の安全性に関する消費者の意識調査に関する研究(III)」, 第116回日本食品衛生学会, 令和2年11月28日~12月8日, (WEB講演会)
- [2] 堀江正一 他「食品添加物の安全性に関する消費者の意識調査に関する研究(IV)」, 日本薬学会第141年会, 令和3年3月27-29日, (WEB講演会)